

平成30年度 施策マネジメントシート【29年度実績評価】

作成: 30年6月15日

施策番号 4-2-3	施策名 国際・地域間交流の推進	基本目標 個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり 政策名 交流を通じた魅力ある地域文化の形成
主管課 企画財政課	課長名 佐野寿行	内線 220
施策関係課 農林課・社会教育課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図			結果	
友好都市との交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。		町民 交流都市の住民	友好都市との交流に参加し、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる			交流を通じた情報の連携によるまちづくりをすすめる	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	28年度	29年度	30年度	
① 他都市(トレーシー・広尾・揖斐川)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	住民意識調査	%	トレーシー 61.4 広尾町 44.1 揖斐川町46.9	トレーシー 72.1 広尾町 49.4 揖斐川町52.6	トレーシー 71.5 広尾町 48.2 揖斐川町50.7	トレーシー 65.0 広尾町 50.0 揖斐川町50.0	
② 行政が行っている交流事業・行事の数	企画財政課調べ	回/年	16	14	15	16	
③							
成果指標 設定の考え方	①トレーシー市については前期実施計画と同様に65%を、揖斐川町と広尾町は後期実施計画策定時に約45%であったことから50%を目標とする。 ②後期計画策定時の交流行事を維持する目標とし16回とする。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	12,771	17,728
人工数(業務量)	0.6222	0.9815

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①②ともに前年度と大きく変化していないため、成果は変わらなかったとした。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	トレーシー市、揖斐川町の認知度は目標値をクリアしており、民間団体による交流も期待できる。また、広尾町については、平成28年度が周年であったが、災害対応などにより事業を中止せざるを得なかった。平成29年度において広尾町を幹事とした共同物販事業を実施した。

(2)施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	国際交流推進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業		
	中学生国際交流事業			
	揖斐川町交流推進事業			
③事務事業全体の振り返り(総括)			●揖斐川町との交流が10周年を記念し、「JAめむろ」と「JAいび川」による連携協定が締結され、それぞれの直売所などにおいて生産物の販売を始め、JA女性部同士の連携も進められている。	
			●広尾町との交流30周年を記念し、札幌市内において共同物販を行った。	

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した
			○			
※該当に○印						

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 社会・経済状況の変化により、町として多額な費用をかけて交流という状況にはない。 《今後の予測》 認知度向上に向けて、交流内容などの周知手法を検討することが必要。 地域間交流は人的交流から経済交流に発展させるのが一般的であることから、3地域ともに交流の熟度を高めていく必要がある。
	特になし。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

課題① 地域間交流の深化

国際交流・地域間交流とともに、人材交流・物産交流・経済交流などに結び付けていくことが大きな目標であるが、各交流とも事業が定例化しているなかで、JA同士の協力関係が構築され、今後の経済交流が期待される。

課題② 地方創生(産業雇用プロジェクト)の推進

ふるさと交流センターにおける山村留学生の受け入れは安定しているが、農業実習生の受け入れ実績がここ数年ない反面、農業従事者の人手不足が課題となっており、様々な業種に対応した就労支援体制の構築が必要である。

6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	友好都市の認知度も高まっており、計画策定時と比較して前進していると言える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	地域間交流が経済交流に発展することが期待される。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価と同じく前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	近年、交流事業への参加希望が減っているのではないかと感じる。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					